

## 工藤英美先生との思い出「年譜」

※★印は、2人が関わった出来事

西 暦	和 暦	年齢	◆英美先生のこと	○鈴木和人のこと
1937	昭和12	0	4月6日誕生	
1960	昭和35	22	◇3月秋田大学学芸学部卒 ※卒論 『八森泊海岸の「素波里安山岩」』	
1972	昭和47	34	◇峰浜村立沢目中に在職。 ◇「八森の自然～地形・地質」 (八森町教委・八森町教育研究会委員会編)を執筆	○4月 峰浜村立沢目中学校入学
1973	昭和48	35	★学年レクで、青森県入良川河口でキャンプ	
1974	昭和49	36	★学年レクで、十二湖周辺のガンガラ岩海岸でキャンプ ★理科野外授業：自転車を利用し砂丘の観察調査等(複数回)	
1975	昭和50 1～3月	36	★高校受験対策：放課後に「生徒どうしの学び合い学習」がなされ、先生も相談に対して積極的に関わる	
	昭和50	37		○4月 能代高校入学
1977	昭和52	39	◇「峰浜村蝦夷倉における土器類片を含む砂丘について」を執筆 ◇秋田第四紀研究グループ「秋田地学・その成果～郷土の第四系(秋田地学29)」執筆	
1978	昭和53	40		○4月 秋田大学教育学部入学 (地理学研究室所属)
1982	昭和57	43	◇3月 秋田県教育センター研究紀要第13集「砂丘の教材化～能代砂丘を中心として～」を執筆	○3月 秋田大学教育学部卒 ※卒論「能代周辺地域の旅客交通」
		44	★工藤：4月八森町立観海小赴任、鈴木も同校新採用 (3年間同職)	
1983	昭和58	46	◇「眼下にみた津波ー日本海中部地震ー(理科教室 Vol26No.12)」を執筆(新生出版) ★日本海中部地震の被害状況を二人で確認 ★社会科副読本で使用する写真作成で、観海小で徹夜作業 ◆八森町の被害状況、児童の作文、写真などを収集	○津波被害があった小入川地区を調べ、被害地図を作成。
1984	昭和59	47	★4月「私たちの八森町」発行。※日本海中部地震を掲載。 ◇「能代砂丘の形成について(日本地質学会第91年学術大会講演要旨)」に執筆	

			★鈴木の授業を基に、「かけ算」の型分けやのタイル使用を提唱。個々の児童に対応をした研究成果を執筆。書籍に掲載	
1985	昭和60	48		○峰浜村立岩子小学校に赴任（5年間）
1886	昭和61	49	◇秋田の自然「日本海中部地震」（理科教室1986 6月号）を執筆	○「大槻野開拓～原野を切り開いた人々」を執筆（未公表）
1989	平成元	51	◇12月「八森町誌」発行。（地質等を担当）	
1991	平成3	53	◇1月3日、自宅裏の海岸に「オウギハクジラ」の死体が漂着 ※後に、骨格標本製作	
1992	平成4	54	◇「能代平野の成り立ち（その一）」（能代市史研究第2号）」を執筆（能代市史編纂室） ◇「白神山地とブナ原生林～奥地開発計画とその中止をめぐって（地学教育と科学運動21）」を執筆	
1995	平成7	58		○4月 英美先生の地元、八森町立八森小に赴任（2年間） ★先生自作の物語「八つの森」の原稿を基に脚本を作成 ○人形劇版「八つの森の物語」の脚本を執筆（未発表）
1996	平成8	59	◇郷土誌資料「八森」第36号に「オウギハクジラてんまつ記」を執筆。 ◇「能代市街地下より採取した木片の <sup>14</sup> C年代（年報能代市史研究4号）」を執筆	
1997	平成9	60		○4月 八森町教育委員会に赴任（3年間） ◇白神ネイチャー協会が立ち上がる。 ○12月ごろ、白神ネイチャー協会に加入。
1998	平成10	60	◇3月 埴川小学校で退職	
		61	★ファガス屋外に「オウギハクジラの骨格模型」の展示。 ★鈴木に「高草洋子」氏の創作童話「貧乏神様さま」を紹介し、その作品上演を依頼	
1999	平成11	62		○先生の依頼に応え、朗読劇用の脚本を執筆。 ○10月 八森町民文化祭で1回限りの上演（NHK取材、北羽新報取材） ○「消えた集落『荒下』」（郷土誌資料【八森】第40号）を執筆
2000	平成12	63		○4月 ニツ井町立富根小赴任（2年間） ◇8月 能代市史「特別編自然」発行 ※自然部会部会長で、地形・地質を執筆
2001	平成13	64	◇「1998年11月25日秋田県八森町で	

			発生した竜巻について」(秋田地学教育学会 No51)を執筆
2002	平成14	65	○4月 峰浜村立岩子小赴任(3年間) ◇白神山地が世界自然遺産登録10周年を迎え、長編記録映画『白神の夢』の製作協力のため、町民有志と「記録映画製作を支援する会」を立ち上げる。
2003	平成15	66	★岩子小で、「岩子の地形」の学習指導
2004	平成16	67	◇5月 白神ネイチャー協会は、新たに「NPO法人」を設立。 ※法人化のための事務手続き等で、役所や関係機関に通い相当難儀。(本人談)
2005	平成17	68	○4月 八森町立岩館小赴任(4年間) ◇長編記録映画「白神の夢」が八峰町はじめ愛知万博など全国で上演が実現
2007	平成19	70	★鈴木に、「貧乏神様さま」の人形劇上演を依頼 ○12月 鈴木が所属するボランティアグループ「童芸まつぼっくり」が上演
2008	平成20	71	★秋田大学で開催される日本地質学会で「小中高生の地学発表」参加を、郡市内4小学校を回って依頼 ・岩館小「岩館海浜プール付近の白(黄色)い岩」 ・湊城西小「能代砂丘」 ・湊城南小「滝ノ間海岸の岩穴」 ・旧八森小「泊海岸の魚岩」 ○9月 秋田大学で児童がポスター発表
2009	平成21	72	○4月 北秋田市立合川北小赴任(2年間)
2010	平成22	73	◇八峰町沿岸のジオパークを目指す「八峰町ジオパーク推進協議会」発足
2011	平成23	74	○4月 三種町立下岩川小赴任(2年間)
2012	平成24	75	◇9月「八峰白神ジオパーク」認定が決まり推進協議会会長に就任
2013	平成25	76	○4月 能代市立第四小赴任(2年間) ★四小児童に「貫入岩脈と火山活動」や「白神山地」を紹介
2014	平成26	77	◇8月 Rimse No 9(理数 教育研究所)に、地域教育で活躍する人々として、『小学校野外学習「エンジョイ白神山地」に協力して』を執筆 ◇9月 ジオパーク国際会議(カナダ)で、白神山地、白神ネイチャー協会やの八峰白神ジオパーク取り組み、子ども

			たちとの 学習活動の様子を紹介
2015	平成27	78	○4月 三種町立琴丘小赴任（1年間） ◇「日本ジオパーク全国大会霧島大会」でポスターセッションプログラムに参加。
2016	平成28	79	○4月 三種町立下岩川小赴任（2年間） ◇4月「秋田まるごと地球博物館ネットワーク総会」で話題提供 ⇒『心が豊かになるジオパークを目指して』
2017	平成29	80	★下岩川小で、「白神こだま酵母とパンの話」を講話
2018	平成30	81	○能代市立向能代小赴任（2年間）
2020	令和2	82	★1月 岩館小入川海岸の立岩・オカムイ岩の観察に参加 ★2月「オカムイ岩伝説」の脚本づくりを鈴木に依頼
		83	○3月 能代市立向能代小学校退職 ○4月「オカムイ岩伝説」を人形劇用に脚本として執筆。（未発表） ★4月 先生が主催する「ジオ学習会」に参加 （週1回：夜7時30分～9時、八峰町「ファガス」） ★5月 先生の米作り作業の手伝い（田植え・稲刈り） ★9月 自分の死後公表してほしい内容を聞き取り、執筆 「英美先生、北朝鮮白頭山へ行く～土井遺跡・蝦夷倉遺跡で発見した薄黄色の火山灰の特定～」（未公表） ★12月 先生の発表年不明の論文を復元し作成 「八峰白神ジオパークエリアを活用した地学学習の実践とその意義」 ※八峰白神ジオパーク設立のきっかけの学習実践、本ジオパークの特色、世界大会での発表の経緯を示す内容
2021	令和3	84	★6月から学習会の名称を「野を這う会」と改称 （野を這う＝know How＝ノウハウ） ★先生の米づくり作業の手伝い。 ※今年で米づくり終了 ◇年末にかけ、体調不良で学習会は一時休止
2022	令和4	85	○5月 八峰白神ジオパークガイド養成講座に参加。 ★春ごろ、学習会を再開。 ※学習会は先生の「自宅」で開催 ⇒ 夏ごろに再び休止 ★12月20日で学習会は終了（開催回数：90回） ※野外観察箇所：鹿の浦・泊海岸、岩館海岸、チゴキ崎、 県境付近、泊川鉄橋付近、小入川周辺 ★学習会休止以降、個別に自宅訪問する（令6まで対応可能）
2023	令和5	85	○3月 八峰白神ジオパーク認定ガイドに認定される。

		8 6	<p>○4月 八峰白神ジオパークガイドの会入会 ★自宅を訪れると、八峰白神ジオパークの今後を案じていた。</p>
2024	令和6	8 6	<p>◇八峰広報3月号「八峰白神ジオパークの連載」が第157回をもって終了する。 最終号は、英美先生の話が掲載される。 「ジオパークは面白い！」 内容①&lt;印象的な授業&gt;のこと 内容②&lt;ジオパークは、遺伝子を開く鍵束の宝庫&gt;のこと</p>
		8 7	<p>○4月 能代市教育委員会任用（1年間） ○絵本「石ころ地球のかけら」を脚色し、ラミネート紙芝居を製作（未発表）</p> <p>★6月？ 鈴木の人に同乗し「旧発盛鉱業所の溶鉱炉跡や鉱滓の排出場所」を確認【最後の野外観察】</p> <p>★その後、寝て過ごす日々が多くなる。</p> <p>○11月 郡市生涯学習奨励員協議会研究大会（八峰町）で講話 「鉱山跡と砂丘が伝える昔の八峰町」 ○12月 市民おもしろ塾で講話（能代市） 「八峰白神ジオパークの魅力」</p>
2025	令和7	8 7	<p>◇3月 新人ガイドの安井光大氏、瀧本孝子氏（浜田）と自宅で面会</p> <p>○3月 能代市教育委員会を退職</p>
		8 8	<p>○4月 ジオパークガイドの会会長に選出</p> <p>★4月 会長に就任を報告</p> <p>○5月「東北わくわくジオパークフェスタ」（盛岡市）で八峰白神ジオパーク紹介</p> <p>★寝たきりの状態が続き、面会が困難</p> <p>○5月「鹿の浦周辺ジオウオーキング」実施 ※オウギハクジラ漂着記録堀もを案内</p> <p>○6月 郡市生涯学習奨励員総会研修会で講話と現地案内（八峰町） 「八峰白神ジオパーク内外で発生した災害とその伝承の形」</p> <p>○7月 能代山本ジュニア陸上競技クラブレクで、野外講話（十二湖／青池）</p> <p>○7月 秋田県内ジオパーク団体等のPRイベント参加（秋田駅）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柱状節理模型作り</li> <li>・砂鉄と磁石につかないカラミの観察遊び</li> </ul>

		<p>○8月「リゾート白神乗車ガイド」 ※リハーサル兼ねる(能代駅～十二湖駅間) ※8月2回,9月1回,10月3回,11月1回 計7回実施 (参加ガイド多数)</p> <p>○9月 東京大学「東大生地方創生コンソーシアム」の学生のジオサイト案内 (柱状節理、ブラックサンドビーチ、小入川鉄橋、岩館立岩)</p>
88		<p>★9月7日(水) 午後3時45分～4時 先生の奥様、中学校の同級生、笠原昇子さんと病院へお見舞いに行く。</p> <p>◇9月21日 容態悪化 ○秋田県文化財保護協会県内研修で講話と現地案内(八峰町) 「旧八森町半分の史跡等を廻る旅」</p> <p>◇9月22日 逝去 ○先生の逝去知らず。</p> <p>◇9月23日 ○「東八森駅からのジオウオーク」実施。 先生の逝去知らず。</p> <p>◇9月25日 火葬 ○火葬参列</p> <p>◇9月26日 14:00 葬式 ○日本ジオパーク大会全国大会・十勝岳大会へ参加(北海道美瑛町・上富良野町)</p> <p>○10月「八森駅からのジオウオーク」実施</p> <p>○11月 豊田通商(株)研修で八峰町案内 ※白神ガイドと八峰白神ジオパークガイドによる合同ガイドを実施。(先生の願いかも?)</p> <p>○11月 峰浜の地形の研修(現地案内) 「水沢川の河岸段丘・砂丘の下に沈む段丘痕跡・水沢海岸と津波伝承碑、手這坂の地形」</p> <p>○11月 ゆざわジオパークガイド認定試験審査(湯沢市)</p> <p>○12月 ガイド研修会(研究報告会) ⇒「泊海岸の素波里安山岩に見られる枕状溶岩と偽枕状溶岩の経残の意義」 秋田大学大学院鉱山学研究科博士課程修了 安井 光大氏 ⇒「素波里火山岩類の化学組成から見る地下のマグマプロセス」 北海道教育大学 相澤 正隆氏</p> <p>※終了後、八峰白神ジオパークガイドの会を退会、会長退任</p>
2026	令和8	現在、ガイドや学校、町民に役立つパンフレット資料作成中

## 八峰町長編記録映画 「白神の夢」

### プロデューサー山下 勉さんのメッセージ

#### 「世界遺産」と獲れなくなった「ハタハタ」

私がはじめて秋田県の最北端にある八森町(現「八峰町」- 2006年3月27日峰浜村と合併)を訪れたのはもう10数年も前のことです。秋田音頭で「秋田名物、八森ハタハタ・・・」と唄われるほど、ハタハタ漁が有名な所でしたが、近年ハタハタの漁獲量が減少し、もうほとんど獲れなくなってしまった。そんな時でした。裏山の「白神山地」が「世界自然遺産」に指定されたのとは、対照的に、町全体の雰囲気も非常に疲弊していました。

そんな所に、「よそ者」の私が行って、「町の再生」について、今までとはまったく違う方法でいろいろな提案をしたものですから、反発されることもありましたが、心ある人たちの協力もあって、調査を始めることになったわけです。

私はまず町の歴史を調べることから始めました。この地域では室町時代に銀山が発見され、銀の製錬をするためにブナ林を切って燃料にしていたのですが、明治以降、大資本が投入され、大規模になり、ブナ林はすぐにハゲ山になってしまった。その頃、秋田油田が発見されたこともあって、石油や石炭を精錬の燃料として使うようになったため、砂浜の砂が黒くなってしまった。

さらに、1983年(昭和58年)の日本海中部大地震で大津波の被害に合い、津波対策として、岩場だった所を削り、コンクリートで固めて、テトラポットを置いて防波堤を作った。そのため、水がしみ出していた岩場が無くなり、「白神山地」を源流とする、きれいな川の水が海に行き難くなってしまった。

それから、ブナ林を切りつくしたハゲ山に、お金になるだろうということで植えた杉やヒノキが、安価な外材との競争に負けたため、森の手入れが行き届かなくなってしまった。そこに大雨が降ると水や土が流れ出すようになってしまったので、土石流対策として、あちこちに砂防ダムを作ったため、川が分断され、砂さえも海に流れなくなってしまったことなどがわかってきました。

「白神山地」として「世界自然遺産」に指定された範囲は、隆起した所だけですが、実は海の底も含めた全体が「白神山地」なんです。山の恩恵と山のきれいな水が海に流れて藻場ができ、そこがハタハタなどの豊かな漁場になっていたわけです。その中で、漁業をやって、農業をやって、林業をやって生きてきた農山漁村の生産基盤がすべてが壊れていました。漁業は漁業、林業は林業、農業は農業というようにみんなバラバラになってしまったこともあって、数千年やってきたことが、現代になって継承者がいなくなり、農業もいない、林業もいない、漁業もわずか。高齢化も進行していて、「これから、どうやって生きていくのか」という局面を迎えていたわけです。

## 「よそ者」だからできること

その調査結果で、少し、町の人のの中にも、動きが起こり始めたのですが、その時、私は、町の人同士が、ほとんどコミュニケーションをとっていないことに気が付きました。表層的な対立があったためです。それで、町のことに意見を持っている人を 22 名集めてもらったのですが、「集めてもいい話なんか出ませんよ」と言われたので、私が 22 人の委員に、個別に話を聞きに行きました。男性とは酒を酌み交わしながら、女性はひとつの場所に集まってもらって話を聞きました。

私のような全くの「よそ者」は、対立している人たちの両方に接触することができます。「何も知らないので教えてください」と謙虚に話を聞きに行くと、懇切丁寧にいろいろ教えてくれます。しばらく話していると本音も出てきます。未来のこと、子供のこと、ご先祖の話になると非常に謙虚に、いいことをいう人が多い。しかも、対立している人と、同じことを言っている場合もあるんです。ある人が言ったことを、少し変えて伝えると、対立している人にも伝えられる。「よそ者」である私を介してつながっていく。これは初めて味わったいい経験でした。

そして、聞いた話のいい所だけをつなげて構成し、話に出てきた「昔の記憶」の場所をハイエイトで撮影し、編集して、みんなに見てもらいました。みんな、自分の言っていることを対立していた人が膨らませているのを聞いて感動した。これは「よそ者」のマジックなんです。私が勝手にやったことですが、いい価値をつないで提示したら「なんだお前もいいこと言っているじゃないか」、「俺もお前ももっと話さなきゃいけないな」といって話し合いの土俵ができたんです。この委員会を 1 年間で 10 回開き、その中で、昔の人たちが何をやってきたのかという『過去の記憶』と、どう駄目になってきたのかを知ることによって、今までの閉塞状況に陥っていたことを打破するという夢を持ち始めたんです。それをまとめたものが、『『八森町百年構想』～太古の記憶－白神の森と海に生きる～』なんです。そして、「自分たちの住んでいるところをちゃんと見る」ということがいかに大事かということがわかって、「自分たちの故郷の記録を撮ろうよ」という話が誰ともなく持ち上がってきたんです。

## パンと子供たちと『白神自然文化賞』

その頃、新聞に秋田県の総合食品研究所が「白神山地」で発見された、低温でも活性力のある「白神こだま酵母」という酵母菌を使って、味噌や醤油やパンを作る研究をしているという記事が出ました。その記事を、八王子で天然酵母のパンを焼いている大塚節子さんが見て、「この酵母菌を分けてもえないか」と相談を受けました。最初は断られたんですけど、研究所も大塚さんの作るパンがおいしいということがわかって、少しだけ分けてもらうことができたんです。それで、作り始めたんですが、なかなか腐葉土の臭いが抜けない。半年ぐらいかかって、ようやく、手で練る感覚はどれくらいがいいかというのを探り当てることができた。そこで、大塚さんは、「白神の酵母なんだから、白神の水で練らないとだめでしょう」ということで、私は、白神ネイチャー協会の工藤英美会長に相談したところ、「じゃあ私が汲んできてあげますよ」と言って、水を空輸してくれたんです。

そうしたら、素晴らしいものができた。大塚さんはお礼の意味も込めて、工藤さんにパンを送りました。工藤さんというのは地質学者で、白神の地質や石のことを、八森小学校の「総合学習」で教えている方で、授業の時に子供たちに少しでもそのパンを分けてあげたんです。そうしたら、子どもたちは素晴らしい感性で、これを受け止めて、涙が出るような作文を書いてくれた。それを読んだ大塚さんとパン屋のスタッフもみんな涙したそうです。そして、大塚さんが八森小学校を訪ねたことから、パン作りやお菓子作りを通した子どもたちとの交流が始まりました。

工藤さんから「白神山地」の地形や地質のことを、大塚さんからパン作りを学んだ子供たちは、それを作文にしました。そして、それが「白神自然文化賞」の小中学生の部門で大賞を受賞することになったのです。

これに一番驚いたのは、子どもたちの家族です。子供たちが賞をもらった「白神山地」のことを、親たちは何も知らない。家族の中で会話が生まれたんです。白神の森の中で育まれる生物にはいろんな種があって、その一つ一つの小さな命が、雨が降って、水と共に流れ込んで、溶かし込んで、川を通じて海に行く。そして真水と海水が混じりあうところに藻場ができて、そこにハタハタが産卵をしに来る。まさに、山と海がつながっているということを家族も理解したんです。それがやがて熱気となり、地域へと広がっていきました。

## 授業風景を映画に

そこで、私は、この「総合学習」の模様を映画に取り入れることを考えました。最初は、町の人たちの昔の記憶を元にして、自分たちの「まちづくり」の映画を自分たちの手で作ろうと考えていたのですが、いろいろないいことが起こりすぎて、これでは、間に合わなくなってしまう。ということで、プロの人たちに相談に行きました。そこで小池正人監督を紹介され、話をしたら「それは10年かかってもやりましょうよ」と言ってくれたんです。

それから、白神ネイチャー協会の工藤さんや八王子のパン屋さんの大塚節子さん以外にも、サックスプレイヤーの坂田明さんや自然生態写真家の江川正幸さんや微生物の研究者やいろいろな人たちを、町の人たちに紹介しながら説得をしていきました。そして映画を撮り始めると、八森町は全部で1000世帯ぐらいの町なんです。その内の七百数十軒の人たちが、寄付をしてくれました。町のほとんどの人たちが私たちのやろうとしていることを理解してくれていたんですね。

撮影中は、子どもたちに付き添って、白神の森を歩いたり、十二湖にミジンコを取りに行ったりしたわけですが、「これだけ小さなミジンコの命から白神山地を考え始めた、初めての人たちです」と紹介されたりもしました。

記録を作るための段取りに10年。撮影に3年かけて、「白神の夢～海と森に生きる～」という映画を作ったわけですが、ちょうどその年は、「白神山地」が「世界自然遺産」に登録されて10周年で、翌年には「愛・地球博」が控えていた年だったんです。その時に

万博協会の人たちに映画を見ていただく機会があり、「これこそ、万博のテーマ『自然の叡智』を伝える最適の作品だ」との評価をいただき、「万博委員会として『愛・機中博』に出展したい。ただ、3時間20分の全編ではなく、ダイジェスト版を作ってもらえないだろうか」ということで、万博会場での『白神の夢』の上映が実現されたわけです。

### 大切な「遺伝子の秩序」

その土地にはその土地の気象条件なり、地形条件や地質条件によって育まれた食物連鎖を通じた生き物の関係があるということです。それは「種の秩序」であり、それはまた「遺伝子の秩序」でもある。この「遺伝子の秩序」を攪乱しないことが非常に大切なことなんです。

八森町では、5年に1回あるブナの実の豊作期に、ブナの実を採ってきて、大事にビニールハウスで5年間ぐらいかけて苗木に育て、それを山に返していくということをしています。植林事業を業者に頼むと、コストの関係で外国の安い苗を持ってきてしまう。そうすると「遺伝子の秩序」が攪乱されて、微生物の環境がまるで変わってしまう。顕微鏡で見ると落葉広葉樹と針葉樹の微生物の密度というのはかなり違う。落葉広葉樹の森で生き物が死ぬと、微生物が多く分解力が強い殻から、すぐに白骨化して臭いも残らないのですが、針葉樹の森では、微生物が少なく分解力も弱いので、いつまでも臭いが残るんです。

「白神こだま酵母」は、白神の気象条件の中で発生してきた種ですから、その寒さに耐える生命力をもっている。その土地にはその土地の気象条件があり、その土地固有の種があるということです。見かけは同じでも違うということなんです。

八森町でいえば、今まで、ハタハタという魚は目で見えていたわけですけど、「白神こだま酵母」のような見えない資源があるということです。それを活用するには、数千兆いる微生物の一個を借りてきて、光と熱と水を与えることによって、分裂して増殖するんですね。1個借りてきたものを増殖させて、培養して、人間が活用していくことができる。最終的には、焼き殺すわけですけど、1個焼き殺すだけなので、自然の生態系には全く影響がないんです。

インターネット／

「JAPAN GEOGRAPHIC 秋田県八峰町「白神の夢」ロケ地と出演者を訪ねる」より引用

## 心に残っている工藤英美先生の言葉や姿

### （1）英美先生が伝えたり話したりした言葉

- ①何でも（自分が、自分が）オレがオレがとやるのは、絶対だめだ！  
⇒二人でジオ学習をした時は、常に伝えていただいた言葉  
⇒そして、最後のお見舞いに行った2025 R7.9.7 病室でも
- ②物事（研究や義務的報告物、手がけている作業物など）への取り組む時は、その日の終わりで「もう少しやりたい」と思う時に切り上げるのが良い。  
⇒観海小学校で同職した時
- ③外国の訪問者に備えるために、英語を使えるように。  
⇒ジオ学習会で
- ④物事をなすとき、ものを作り上げる時、その形は美しくなければならない。  
⇒米作り作業手伝いで
- ⑤受験勉強であれもこれもと悩まないよう、自分の頭の中に引き出しを持つ。  
⇒沢目中学校3年生の時の理科授業で
- ⑥現職からボランティアや地域社会と関わってれば、退職後は悩まなくても自分の方向を持つことができる。  
⇒現職時代、人形劇やブナの植樹に関わっていた時の隙間時間で

### （2）英美先生のガイドの姿でわかったこと

- ①「なかなか答え（結論）を言わない・教えてくれません。なぜだろう？
  - ・その人（子ども）の感性や思い、想像力を大切にしていました。
  - ・それを肯定してあげることで、人（子ども）の喜びは、心に刻まれます。
  - ・心に刻まれたものは、ある日突然芽生えて、その人（子ども）の行動のエネルギーになり、蓄えられた能力が発揮されるのを期待していたのかもしれませんが  
⇒「宮沢賢治」の詩「あそこの田はねえ」をいつも思い出します。

※宮沢賢治は、石っこ賢さんと呼ばれほど地質・地形に詳しい。また、童話作家、詩人、農業指導者、技師、教師でもあった。

※私はいつも英美先生を、宮沢賢治のようだを感じていました。

- ②子どもたちの好奇心を高めようとするのを第一に心がけていました。
  - ・「そうだね!」、「この考えはいいね」、「これができれば、ノーベル賞だ!」
- ③ガイドする際、必ず前もって現地に行って、事前調査をしていました。  
⇒話す構想や、現地の安全に配慮していたのだと思います。

あすこの田はねえ  
 あの種類では窒素があんまり多過ぎるから  
 もうきっぱりと灌水(みづ)を切ってね  
 三番除草はしないんだ

……一しんに畔を走って来て  
 青田のなかに汗拭くその子……

磷酸がまだ残ってゐない？  
 みんな使った？  
 それではもしもこの天候が  
 これから五日続いたら  
 あの枝垂れ葉をねえ  
 斯ういふ風な枝垂れ葉をねえ  
 むしってとってしまふんだ

……せわしくうなづき汗拭くその子  
 冬講習に来たときは  
 一年はたらいたあととは云へ  
 まだかじやかな苹果のわらひをもつてゐた  
 いまはもう日と汗に焼け  
 幾夜の不眠にやつれてゐる……

それからいゝかい  
 今月末にあの稲が  
 君の胸より延びたらねえ  
 ちやうどシャツの上のぼたんを定規にして  
 ねえ  
 葉尖を刈ってしまふんだ

……汗だけでない  
 泪も拭いてゐるんだな……

君が自分でかんがへた  
 あの田もすっかり見て来たよ  
 陸羽一三二号のはうね  
 あれはずゐぶん上手に行った  
 肥えも少しもむらがないし  
 いかにも強く育つてゐる  
 硫安だつてきみが自分で播いたらう  
 みんながいろいろ云ふだらうが  
 あつちには少しも心配ない  
 反当三石二斗なら  
 もうきまつたと云つていゝ  
 しっかりやるんだよ  
 これからの本統の勉強はねえテニスをしてながら  
 商売の先生から  
 義理で教はることでないんだ  
 きみのやうにさ  
 吹雪やわづかの仕事のひまで  
 泣きながら  
 からだに刻んで行く勉強が  
 まもなくぐんぐん強い芽を噴いて  
 どこまでのびるかわからない  
 それがこれからのあたらしい学問のはじまりな  
 んだ  
 ではさようなら

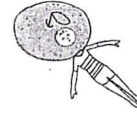
……雲からも風からも  
 透明な力が  
 そのこどもに  
 うつれ……

# 八峰白神ジオパーク

連載 157回

事務局

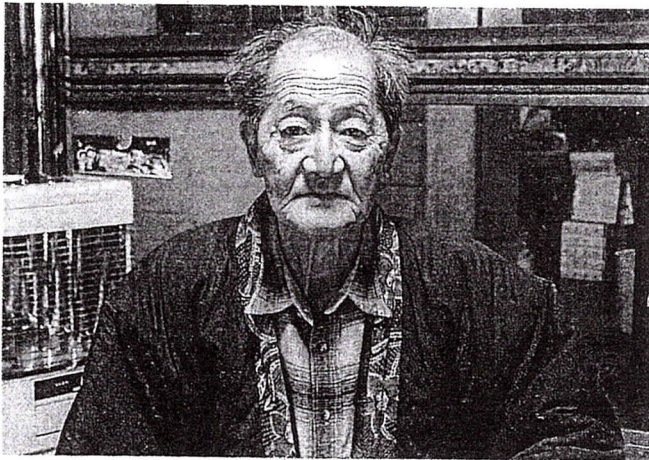
八峰町産業振興課 ジオパーク推進係  
☎ 0185 (76) 4605 FAX 0185 (76) 2203  
HP <https://geopark.town.happo.lg.jp/>



## 白神の恵みに生きる

地域の人話を聞いて、  
大地と自然と人のつながりを考えます

### ジオパークは面白い！



話をしてくれた人

くどう ひてみ  
工藤 英美さん

昭和12年生まれ、浜田在住。元八峰白神ジオパーク推進協議会会長、現在は同顧問。教師として八峰町の学校で長く教鞭をとった。また、八峰白神ジオパークやNPO法人白神ネイチャー協会の立ち上げに尽力した。

### ○印象的な授業

沢目中学校に赴任した時、水沢川沿いの砂丘を調査する野外学習をやりたいと思っていましたが、当時事故があって、登下校でも自転車が使用禁止だったんです。それで、職員会議で自転車の使用を認めてほしいと言ったら他の先生から大反対でした。校長に呼ばれて、「おめの考えは分かった。事故があれば俺は校長やめる、首かけるから、おめやれ」って言われてやれることになりました。生徒たちは、理科のある日だけは、自転車に乗ってこれるからすごく喜びました。すると、「自分たちは自転車で事故を起こしてはダメだ。後輩がこの面白い学習できなくなるから」と、いじめっこのガキ大将がレポートに書いてくれました。勉強って面白いと思えたのでしょうね、高校は全員合格でした。

### ○ジオパークは、遺伝子を開く鍵束の宝庫

ジオパーク立ち上げの際には大変苦労しましたが、大学の先生やガイド、役場などいろいろな人に協力してもらって、なんとか認定を受けることが出来ました。たくさんの人の力があって、八峰白神ジオパークが誕生したことを知ってほしいなと思います。

子どもの感想文のコピーをずっと取っていますが、1番感動したのが、ある女子中学生が「自然というのは、自然にできているから自然と思っていたが、まるで数学の公式のように詰まっているものだ」と書いていたことです。自然は、テキストにできるもんじゃないという感覚を得てくれたんですね。

岩をたたいて、なんだか分からないけど、面白いなあって。それが、ジオパークのエネルギーです。ジオパークには、子どもの脳を活性化させる何かがあります。遺伝子はすごいプログラムで、地球46億年のデータがすべて遺伝子に入っています。普段は閉じられていて、自然の中において面白いなと感じたとき、遺伝子の鍵がぱっと開いてコピーを取るそうです。ジオパークって遺伝子を開く鍵ではないでしょうか。



八峰白神ジオパークは2012年に日本ジオパークに認定されました。

◆このシリーズは今月号で終了します◆

